

## 吾妻山の火山活動解説資料（平成30年4月）

仙台管区気象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はありませんでした。  
大穴火口付近での熱活動は継続していますので、今後の火山活動の推移に注意してください。  
入山する際には、火山ガスに注意してください。また、大穴火口付近で噴出現象が突発的に発生する可能性があることに留意してください。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

## ○ 活動概況

## ・ 噴気など表面現象の状況（図1、図2-①④）

上野寺に設置している監視カメラによる観測では、大穴火口（一切経山南側山腹）の噴気の高さは50m以下で経過しました。

## ・ 地震や微動の発生状況（図2-②③⑤～⑧）

火山性地震及び火山性微動は観測されませんでした。

## ・ 地殻変動の状況（図3、図5）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

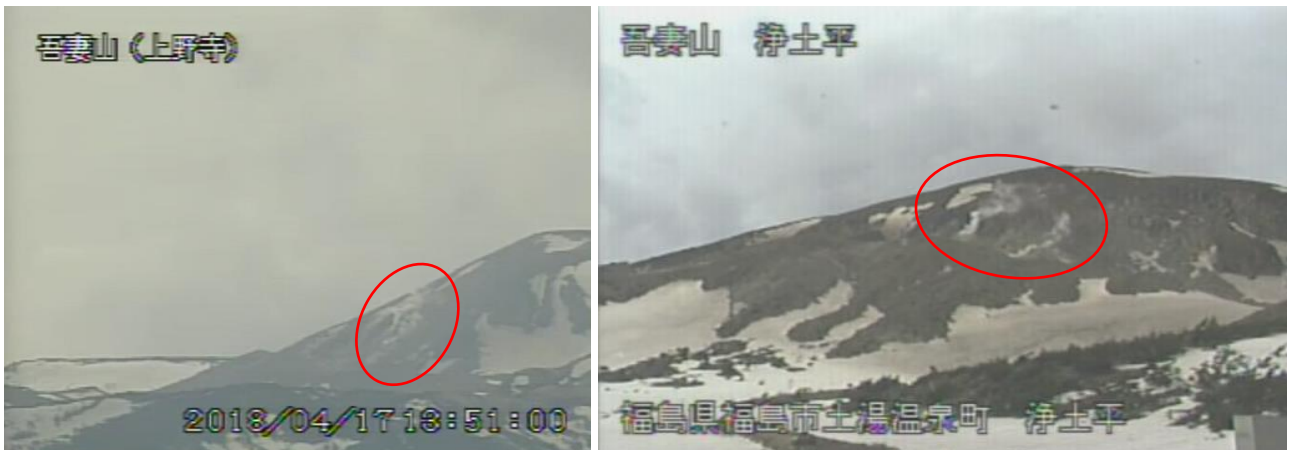


図1 吾妻山 大穴火口周辺の噴気の状況（4月17日）

- ・ 左図：福島市上野寺（大穴火口から東北東約14km）に設置している監視カメラの映像です。
- ・ 右図：大穴火口の東南東約500mに設置されている浄土平監視カメラ（東北地方整備局）の映像（13時51分頃）です。
- ・ 赤丸で囲んだ部分が大穴火口北西側火口壁の噴気で、この時観測された噴気の高さは50mです。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（[https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成30年5月分）は平成30年6月8日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局及び東北大学のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。

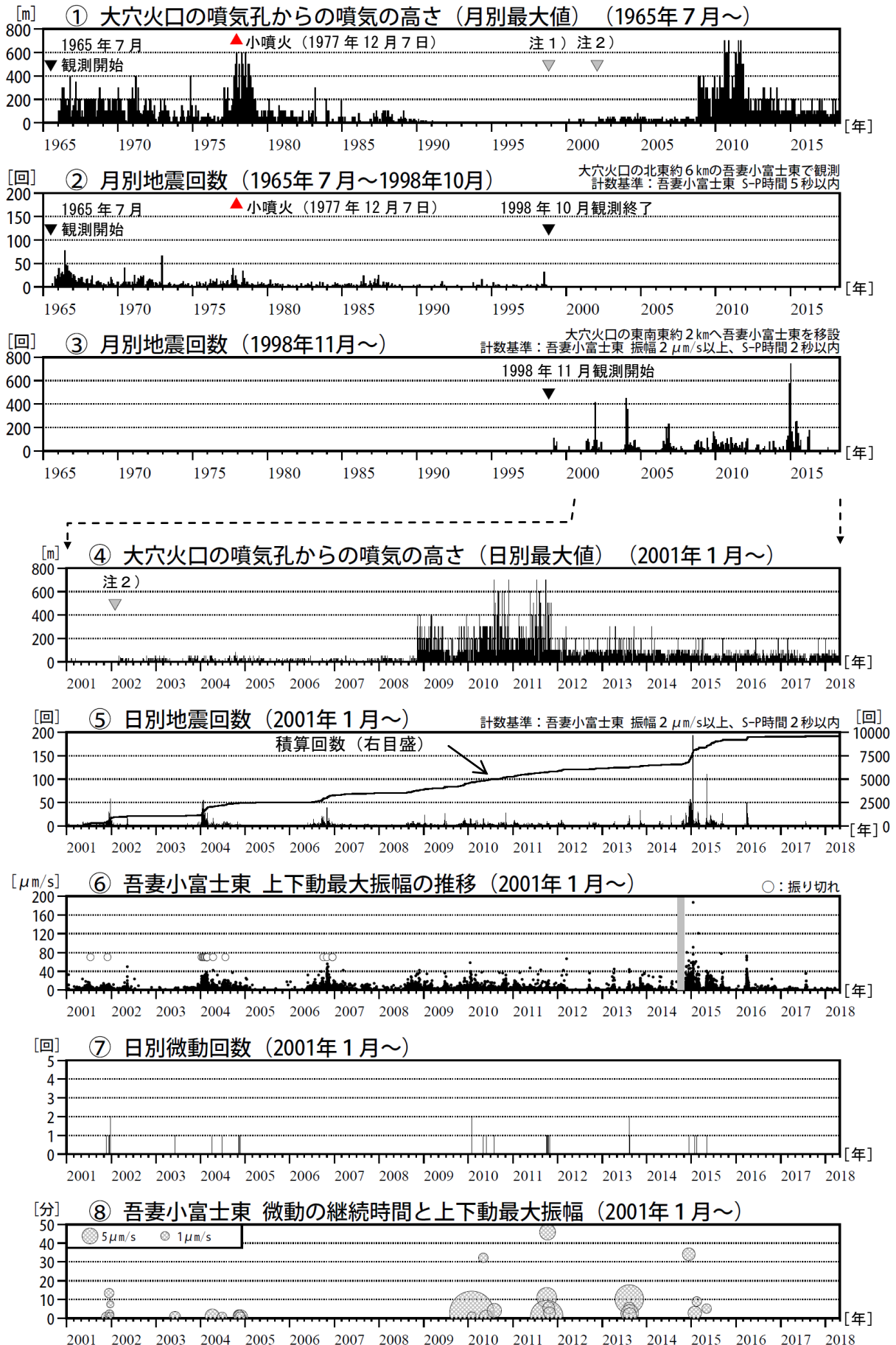


図2 吾妻山 火山活動経過図 (1965年7月～2018年4月)

- ①注1) 1998年以前は福島地方気象台 (大穴火口の東北東約20km) からの目視観測で、1998年からは監視カメラ (大穴火口の東北東約14km) による観測です。
- ①④注2) 2002年2月以前は定時(09時、15時)及び随時観測による高さ、2002年3月以後は24時間観測による高さです。
- ⑥の灰色部分は欠測を表しています。
- ⑥2012年以前は観測機器の設定により、振り切れ値が70 $\mu$ m/sとなっています。

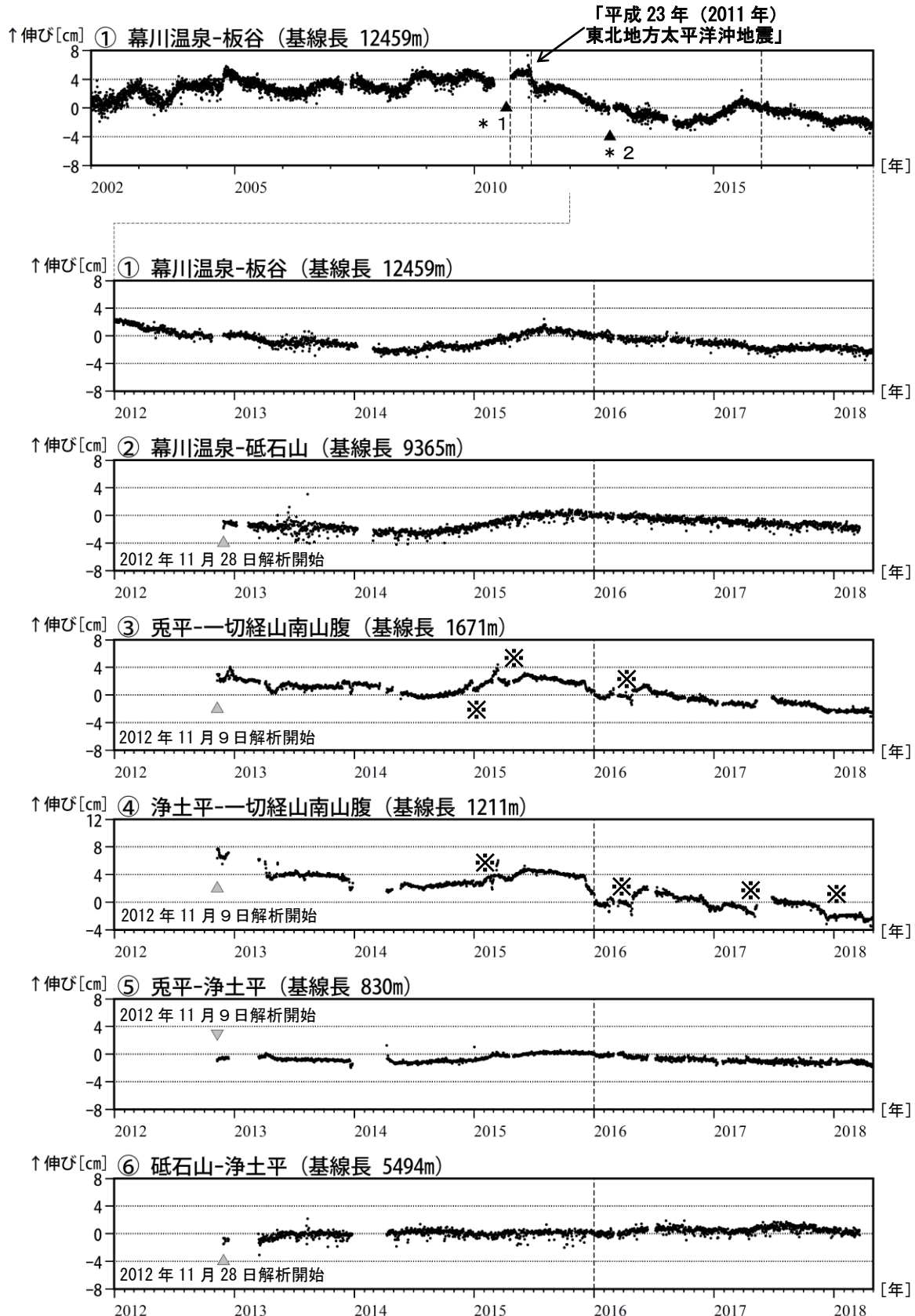


図3 吾妻山 GNSS<sup>1)</sup> 基線長変化図 (2002年1月～2018年4月)

- ・ 2010年10月及び2016年1月に、解析方法を変更しています。
- ・ 「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・ ①～⑥は図5のGNSS基線①～⑥に対応しています。
- ・ グラフの空白部分は欠測を表しています。

\* 1 : 幕川温泉観測点の機器を更新しました。 \* 2 : 板谷観測点の機器を更新しました。

※冬期には、原因不明の変化がみられることがあります。凍上やアンテナへの着雪等の可能性があります。

1) GNSSとはGlobal Navigation Satellite Systemsの略称で、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示します。



図4 吾妻山 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
(東地) : 東北地方整備局 (東) : 東北大学

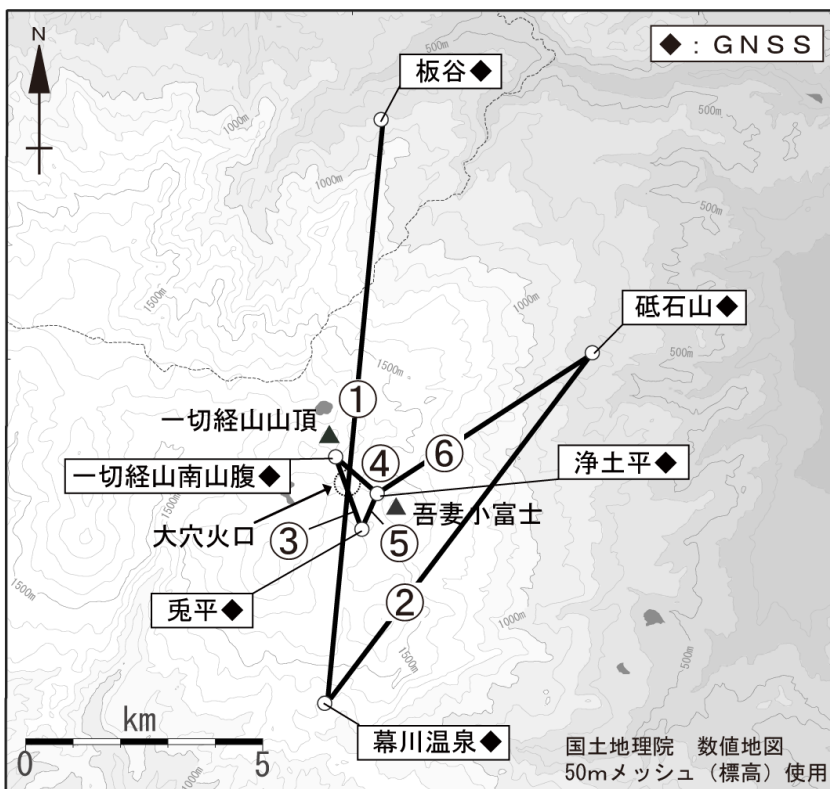


図5 吾妻山 GNSS 観測点配置図

・小さな白丸 (○) は気象庁の観測点位置を示しています。